

*HOLD~hold out hope~*

<https://toyono-jinikyo.com/>

1

令和 2 年度 (2020 年度)  
5 年経験者研修 開講にあたって  
(中堅教諭等資質向上研修)

豊能地区教職員人事協議会では、「子どもとともに学び続ける教職員」を「めざす教職員像」とし、法定研修を実施しています。これまで 10 年経験者研修として実施していた 15 回の研修を、この教職員像を見据え、平成 30 年度より中堅教諭等資質向上研修として 5 年経験者研修 (4 回) と 10 年経験者研修 (11 回) に分けて実施しています。今年度、5 年経験者研修は小学校教諭 75 名、中学校教諭 25 名、合わせて 100 名の先生方が受講されます。

この通信は、豊能地区で行う共通研修の振り返りをもとに発信します。受講者の皆さんの視野を広げ、研修から学んだことをより深めることにつながればと願い作成しています。

### 開講にあたって テーマ：キャリア教育についての理解 ~これからの学校教育で求められるもの~

開講にあたり、(株) キャリアリンクの教育コーディネーターの長友さんをお迎えし、演習を交えながらご講義していただきました。

まず、これまで自分自身が経験してきた道筋を振り返るワークから始まりました。そしてキャリア教育の定義の変遷は社会の流れに対応していること、また学習指導要領の中でキャリア教育が位置付けられていることを学びました。さらに、2 つの授業シーンを比較しながら、教科学習をキャリア教育の観点で見直すとはどういうことかワークを通して具体的に考えました。

子どもたちが生き抜いていく社会、その社会の今後を見据えて、今、どのような教育活動ができるか。キャリア教育という観点から教育活動全体を見直す重要性について学ぶ研修となりました。

キャリア教育というと、聞きとり学習や職場体験、進路学習など行事的な考えが先行してしまっていますが、今回の講義を受けて、学校生活全てをキャリア学習に活用できることが分かりました。我々、教員がどのぐらい意識するかが大切なので、キャリア教育を見直していけるように働きかけていきたいと思いました。また、教科の授業でもキャリア教育を意識してつくっていききたいと思いました。

キャリア教育といっても、職業、進路だけでなく、学校生活全ての中で様々な力をつけて、学びと実社会を連結させることだということが分かりました。

キャリア教育は、子どものキャリア発達を促していくものですが、全ての教育活動において行えるものだと改めて思いました。休み時間⇒コミュニケーション能力、運動会⇒協調性、チャレンジ精神・・・など、全てを将来につなげて考えることができると感じました。

キャリア発達とは、「自分らしい生き方」を実現していく過程」とあるように、大切なことは、子ども一人ひとり、違った自分らしさ＝個性があり、それを尊重しながら、皆違った方向をめざせる指導なのだと感じました。

身につけさせたい力は何なのかを教師側で十分把握しておくことで、同じ学習活動であっても授業の組み立てが変わってくる。カリキュラムに組み込まれているからやる、例年やっているから今年もやるではなく、この活動に取り組む意義は何なのか、身につけさせたい力をより効果的に習得させるにはどうすれば良いか、少し考えるだけで授業づくりは変わっていくことが分かりました。

“学びの多い研修でした。持ち帰ってしっかり活かしていきます。” (振り返りシート：『研修について』より) 学んだことを研修の中だけに留めず、実践し、発信していく。それもミドルリーダーとしての大切な役割の一つです。そして、それが次の学びへとつながっていきます。最終回には、6~10 年のキャリアプランについて考えていきます。そのことも視野に入れ、それぞれの研修が実り多きものになるよう進めていきます。

## 「授業研究シート」を Web アップしました

豊能地区公立学校 5 年経験者研修「授業研究シート」を豊能地区教職員人事協議会の Web サイトにアップしています。第 4 回の研修の際に 6 部持参し、実践報告・交流をします。